

授業科目名	音楽療法の技法	担当形態	講義		
		開講学期	春学期		
担当教員	猪狩 裕史	単位	2	年次	1

＝授業のテーマ及び到達目標＝

1. 音楽療法において、対象者の健康を支援する上での理論と全人的視点についての知識を高める。
2. 音楽療法実践の根底となる、音楽療法における臨床的な流れについての知識を高める。
3. 音楽療法模擬実践や、音楽療法実践の映像を見て、様々な音楽療法の技法・手法についての知識を高める。
4. 応用行動分析について学び、客観的で説得力のある音楽療法を行うための視点と記録方法についての理解を深める。
5. 音楽療法の現場を見学し、どのように音楽療法が行われるかという知識を高める。

＝履修の条件と学習の方法＝

授業に出席することに加え、下記の課題を提出期限までに提出し、学期末に試験を受けること。

1. 自分自身の行動修正を計画し、データを取り、レポートを作成して提出する。計測・修正する行動を選び、目標を設定し、なぜその行動修正が自分にとって必要なのか、目標達成するための選択した技法、ベースラインデータ、操作後のデータを表とグラフで作成、まとめを書く。
2. 応用行動分析の手法を用いた音楽療法の活動計画を2つ作成しそのうちの1つは授業中に模擬セッションを行い発表する。
3. 別に配布される課題用紙に従い、音楽療法の実践現場を見学し、その内容をレポートにまとめ提出をする。
・体調不良や家庭の事情で欠席する場合は、授業開始までにメールか電話にて連絡を入れること。欠席した場合は、前の授業で何が配布されたかを他の受講生に聞いて確認し、その資料を担当教員のところまで取りに来ること。

＝授業の概要＝

これは、日本音楽療法学会で認定する音楽療法士（補）受験資格を取得するために必要な科目であり、その後のフィールドワーク実習をする上での基礎的知識を与える授業である。主専攻以外の学生が取得する場合は、音楽療法について学ぶ意欲を持っていること。また、音楽療法総論も履修していることが望ましい。

＝授業計画＝

- 1回 シラバスを用いての授業と課題について説明、シアーズの『ミュージックセラピーの過程』（プリント）、ブルシアの『音楽経験の型』（プリント）、健康の定義
- 2回 第1章：音楽療法の紹介、音楽療法の定義、APAスタイルについて
- 3回 第2章：データに基づく音楽療法
- 4回 第3章：音楽療法への依頼
- 5回 第4章：初めてのセッション、心理学の理論（人間主義理論）
- 6回 第5章：アセスメント、講師による模擬実践、または実践映像を見る
- 7回 第6章：目的と目標、対象行動、講師による模擬実践、または実践映像を見る
- 8回 第7章：観察、援助の方法、講師による模擬実践、または実践映像を見る、心理学の理論（行動理論）
- 9回 第8章：音楽療法の方法、応用行動分析の方法
- 10回 第9章：音楽療法のセッションプラン
- 11回 第10章：音楽療法の実施
- 12回 第11章：評価活動計画発表
- 13回 第12章：セッションの終結、活動計画発表
- 14回 活動計画発表
- 15回 まとめ、テストについての説明

=テキスト（必携）=

書籍名：ミュージック・セラピスト・ハンドブック

著者名：スザンヌ・ハンサー

出版社：ATA, Inc.

=参考書・参考資料（必携）=

シアーズの『ミュージックセラピーの過程』（プリント）、ブルシアの『音楽経験の型』（プリント）

=成績評価の方法と評価の基準=

- ・ 行動修正レポート 20%、臨床現場見学レポート 20%、活動計画レポート 20%、活動計画発表 10%、期末試験 30%。
- ・ 無断遅刻は 1 %、無断欠席は 2 %の減点。課題提出の遅れも一日遅れる毎に 1 %の減点となる。
- ・ これらの点数を合計し、90点以上はS、80点～90点未満はA、70～80点未満はB、60～70点未満はC、60点未満はDとなる。

=その他=